宮崎県文化財調査報告書

第 41 集

平成10年 3 月

宮崎県教育委員会

宮崎県文化財調査報告書

第 41 集

平成10年 3 月

宮崎県教育委員会

序

埋蔵文化財の保護・活用につきましては、日ごろより深い御理解をいただき、厚くお礼申し上げます。

宮崎県教育委員会においては、文化財の保護及び文化財指定のための調査や、土木等の諸開発事業に伴う遺跡の緊急発掘調査の報告を刊行し、文化財に対する理解をいただいているところであります。

この度は、平成９年度に県指定となりました文化財、及び平成８年度において行った県内の遺跡の調査概要について集録しております。

本書が、社会教育・学校教育の場において広く活用され、あわせて学術研究上の資料として役立つことを期待いたします。

なお、調査に際して御協力いただいた市町村教育委員会並びに地元の方々に対し深甚の謝意を表します。

平成１０年３月

宮崎県教育委員会

教育長　岩切重厚

宮崎県文化財調査報告書第41集の刊行にあたって

昭和31年度の刊行を第１集とする「宮崎県文化財調査報告書」を、本年度から新たな発想から編集することにした。まだ、編集内容に未整理な部分が含まれているが、新たな「報告書」の第一歩として位置付けておきたい。

本来、「文化財調査報告書」の名が示すとおり、文化財・埋蔵文化財を包括した報告書として刊行を重ねてきたが、昭和５４年度の第22集からは埋蔵文化財の発掘調査報告書を主に編集され今日に至った。しかし、次に述べるように、埋蔵文化財センターの発掘調査機能の独立とともに、史跡の整備活用の課題に対応するため埋蔵文化財係において整備事業を分担するなど、文化財係との事業の緊密な連携が要求されていることから、文化課における文化財係・埋蔵文化財係での業務分担の整理を含めて、両係で推進する年度毎の事業成果を集約したものとして、この文化財調査報告書を位置付けることにしたものである。

本　文　目　次

第１章　文化財係事業

第１節　平成９年度文化財係事業　1

第２節　平成９年度県指定文化財　2

第２章　埋蔵文化財係事業

第１節　埋蔵文化財保護行政の変遷と平成９年度事業　4

第２節　埋蔵文化財調査一覧　6

第３節　埋蔵文化財の試掘調査一覧　２０

第４節　埋蔵文化財の事業調整一覧　２２

第５節　奈良国立文化財研究所研究参加一覧　２５

第６節　文化庁担当者会、研修会参加一覧　２５

第７節　埋蔵文化財保護行政担当者会一覧　２６

第１章　文化財係事業

第１節　平成９年度文化財係事業

文化財係の事業は、保護顕彰と保護対策に分かれる。

文化財保護顕彰については、平成９年７月、文化財保護審議会に諮問した高千穂町の仏像２件の答申を受け、指定した。また、平成８、９年の２ケ年事業により、文化財緊急総合調査を実施した。これは、急速に消失しつつある県内市町村の未指定文化財について悉皆調査を行ったものである。調査は、専門員、市町村現地調査員、市町村教育委員会の協力により実施したもので、約１，８００件の集約がなされた。今後の保護・活用の手がかりの資料とするものである。

県内には、国指定８２件・県指定１７８件の文化財があるが、通常、災害時を含め、状況に応じて市町村への実態調査を行った。また、指定文化財に関する市町村の維持管理や環境整備事業に対し補助を行った。

現在、本県の文化財愛護少年団には、８４団体、約４，６００名が加入している。県では、指導者に対し研修会を実施し、団体の活動紹介や情報交換を行った。

次に、民俗文化財の保護・活用については、九州地区民俗芸能大会に、本県から山田町の「山内一バラ踊り」に出演を依頼し、広く紹介された。また、伝統芸能後継者育成事業により、高城町「穂満坊のあげ馬」、都農町「都農神楽」、南郷村「神門神楽」の３団体に対して助成を行い、後継者とともに保存会の強化が図られた。

また、県海岸には、県指定地域８市町と未指定地域５町の１３市町にアカウミガメが上陸する。本年度は、関係全市町村による研修会を初めて行った。また、アカウミガメの調査・保護をすすめるために本年度から指定地の３保護団体に委託し、より詳しい報告がなされることになった。

このほか、銃砲刀剣類の登録事務を審査員３名により年６回実施した。

文化財保護対策については、国・県指定文化財の巡回を実施した。県文化財保護指導委員１５名により現地確認がなされ、速やかに実態に応じた処置を行った。県及び市町村の実施する文化財保存整備事業について、国庫補助事業により記録作成や整備を図った。

また、カモシカの保護については、本年度は通常調査の年にあたり、県内１７市町村３８名の調査員に依頼し、本年度の生息分布、環境の実態を把握した。

文化財保護法に関して、平成９年５月２９日、「重要有形民俗文化財の現状変更等、輸出及び公開の届出等に関する規則の一部を改正する省令」の改正通知が出された。

第２節　平成９年度県指定文化財

1. 地蔵菩薩坐像

(1) 種　　別　　有形文化財

(2) 所 在 地　　西臼杵郡高千穂町大字上野３３６９番地

(3) 所 有 者　　龍 泉 寺

(4) 指定年月日　　平成９年１０月２３日

(5) 指 定 理 由

龍泉寺の地蔵菩薩坐像は、高さが１５３㎝と大きく、半丈六仏の大作は全国的にも貴重である。平安期の一木造の内刳技法とともに、和様の温和な作風を伝え、製作は平安後期とされる。

本県に伝わる平安期の作品は類が少なく、当時の文化交流や製作技術を示す資料として貴重である。

(6) 指 定 基 準

絵画・彫刻の部

ア　各時代の遺品のうち製作優秀で文化史上貴重なもの

イ　本県の絵画・彫刻史上特に意義のある資料となるもの

2. 千手観音菩薩坐像及び脇侍像

(1) 種　　別　　有形文化財

(2) 所 在 地　　西臼杵郡高千穂町大字上野３３８４番地

(3) 所 有 者　　龍 泉 寺

(4) 指定年月日　　平成９年１０月２３日

(5) 指 定 理 由

龍泉寺の千手観音菩薩坐像及び脇侍像は、京都の院派系仏師の作と考えられ、鎌倉期の写実的な彫成がなされ、面貌や像容も均整のとれたものである。脇侍の不動明王、毘沙門天立像も、三尊一具の像として製作されたものとされる。

本県に伝わる平安期から室町期にかけての作品は類が少なく、当時の文化交流や製作技術を示す資料として貴重である。

(6) 指 定 基 準

絵画・彫刻の部

ア　各時代の遺品のうち製作優秀で文化上貴重なもの

イ　本県の絵画・彫刻史上特に意義のある資料となるもの

第２章　埋蔵文化財係事業

第１節　埋蔵文化財保護行政の変遷と平成９年度事業

本県の埋蔵文化財保護行政の本格的な出発は、昭和５７年度の文化財係からの埋蔵文化財係の独立で、同時に埋蔵文化財センターの建設とオープンであった。しかし、埋蔵文化財センターはオープンしたが、発掘調査の機能は文化課に残したままで、総合博物館の構成施設として編入され、主に出土遺物の整理と教育普及を中心に限られた陣容の中で運営されてきた。

その後、埋蔵文化財係の調査体制の整備充実から、平成５年度に第一係、第二係の二係制となり、平成７年度には第一係を調整部門、第二係を調査部門として機能分化した。そして、埋蔵文化財保護行政の大きな転換期が、平成８年度の埋蔵文化財係を一本化し、さらに第二係の調査部門を文化課から分離し、埋蔵文化財センターとして調査機能を持って独立したことであった。

これは、一つには平成７年度に始まる東九州自動車道建設に伴う発掘調査体制の整備充実の必要性から、埋蔵文化財センターに調査機能を一元化することであった。もともと、埋蔵文化財センターの建設時には「調査センター」として発掘調査部門を独立させる構想であったので、建設から１４年を経てようやく本来の機能をもつ埋蔵文化センターとして運営することになったのである。

また、平成７年度からの特別史跡西都原古墳群保存整備事業の本格化に伴い、平成９年度からは埋蔵文化財係の中を調整・指導班と整備・調査班として事務を分掌している。

このように平成７年度に始まる東九州自動車道建設に伴う発掘調査体制の整備充実と、西都原古墳群の保存整備事業を中心とする史跡の整備活用事業は、本県の埋蔵文化財保護行政の大きな重要懸案事項として位置付けられている。

平成９年度は、調整・指導班の業務としては、東九州自動車道を始めとする関連するインター線や延岡道路などの建設省関係の国道道路建設事業、加えて農用地整備公団の大型開発の事業調整を中心として県土木・農政関係事業に伴う調整を行なってきた。その内、県営農業基盤整備事業の試掘調査や事業調整は、調査主体となる市町村との調整を含めた調査体制の整備充実など幾つかの大きな課題を残している。

一方整備・調査班の業務としては、西都原古墳群の保存整備及び土地買上げ事業の他、国衙跡保存整備基礎調査、中近世城館跡緊急分布調査といった国・県・市町村指定に向けた遺跡の保護のための基礎資料の収集・整備を中心に行なっている。西都原古墳群の保存整備事業は、１３号前方後円墳の整備のための発掘調査を実施し、平成９年度は墳丘の芝張り復元と葺石模型の設置と鬼の窟古墳の外堤土層断面観察施

設整備と周堀の整備等を実施している。

国衙跡については、西都市の計画する土地区画整理事業との調整を図りながら、都萬神社から稚児ケ池に囲まれた区域に国衙の政庁跡をほぼ絞り込みつつある。また、中近世城館跡については、本年度においてこれまで確認された約４８０城の分布地図を刊行し、来年度縄張図の報告書を刊行する段階に至っている。

西都原古墳群１３号前方後円墳での現地説明会

第２節　埋蔵文化財調査一覧

０００１

市町村名	宮崎市	調査主体	宮崎市教育委員会	調査担当者	時任直也
フリガナ 遺跡名	ｷｮｳｿﾞﾉｲｾｷ 京園遺跡	フリガナ 所在地	ﾐﾔｻﾞｷｼｵｵﾂｶﾁｮｳｷｮｳｿﾞﾉ 宮崎市大塚町京園		
調査原因	ガソリンスタンド建設	調査面積	４００㎡		
調査期間	平成8年10月11日～平成8年12月3日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	集落跡	遺跡の主な時代	平安（10ｃ後～11ｃ中）		
検出遺構	・溝　１１条　・竪穴住居　３軒　・土杭　２基　・土墳　１基				
出土遺物	・須恵器（高坏、坏、甕）　・土師器（坏、甕、蓋）　・黒色土器　・布痕土器　・石器				
特記事項	検出された３軒の住居址の北壁に竈が付設されたいた。しかも、これらの竈は煙道が一旦下向きに伸びたあと、約１ｍほど離れたところで垂直に立ち上がる。出土遺物に関しては、土師器の坏がその大半を占めているが、これらの土器の中には、「懸」の１字を刻したものもある。				
根拠となる法令					

０００２

市町村名	宮崎市	調査主体	宮崎市教育委員会	調査担当者	中山　豪
フリガナ 遺跡名	ﾆｶﾞﾂﾀﾞｲｾｷ 二月田遺跡Ⅱ	フリガナ 所在地	ﾐﾔｻﾞｷｼｵｵｱｻﾞﾄﾐﾖｼｱｻﾞﾆｶﾞﾂﾀﾞ 宮崎市大字富吉字二月田		
調査原因	県営担い手育成基盤整備事業	調査面積	１，０００㎡		
調査期間	平成8年8月1日～平成8年12月8日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	散布地	遺跡の主な時代	弥生中期～終末期		
検出遺構	・溝状遺構				
出土遺物	・弥生土器　・石器				
特記事項					
根拠となる法令					

０００３

市町村名	宮崎市	調査主体	宮崎市教育委員会	調査担当者	鳥枝　誠
フリガナ 遺跡名	ｵｵﾏﾁｲｾｷ 大町遺跡	フリガナ 所在地	ﾐﾔｻﾞｷｼﾖｼﾑﾗﾁｮｳｵｵﾏﾁ 宮崎市吉村町大町		
調査原因	宅地造成工事	調査面積	５，１００㎡		
調査期間	平成8年4月8日～平成8年10月2日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	集落跡	遺跡の主な時代	古墳時代後期（６ｃ中～７ｃ前）		
検出遺構	・竪穴住居･･･63軒（弥生時代２軒）　・竪穴状遺構･･･６基　・堀立柱建物･･･２棟 ・周溝状遺構･･･３基（弥生時代１基、残り２基は時期不明）・柵列･･･１条＊その他に溝状遺構（古墳～現代）、土坑、近世墓など				
出土遺物	土師器（甕、壺、甑、鉢、椀、高坏、坏蓋、坏身、ミニチュア）　・紡錘車 須恵器（甕、壺、提瓶、はそう、高坏、坏蓋、坏身）　・弥生土器（甕、壺）				
特記事項	・１６軒の竪穴住居にカマドを敷設。・５号竪穴住居床面より、地下式横穴墓状の遺構を検出。墓か？貯蔵庫か？・平成９年度、報告書刊行予定。				
根拠となる法令					

０００４

市町村名	宮崎市	調査主体	宮崎市教育委員会	調査担当者	中山　豪
フリガナ 遺跡名	ｲﾓｱｻﾞｲｾｷ 芋字遺跡	フリガナ 所在地	ﾐﾔｻﾞｷｼｵｵｱｻﾞﾄﾐﾖｼｱｻﾞｲﾓｱｻﾞ 宮崎市大字富吉字芋字		
調査原因	県営担い手育成基盤整備事業	調査面積	７００㎡		
調査期間	平成8年8月1日～平成8年12月8日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	散布地	遺跡の主な時代	弥生・平安		
検出遺構	・溝状遺構　・段状整形痕　・二段堀土壙　・土坑				
出土遺物	・土師器（平安時代後期）　・弥生土器（弥生時代末期）				
特記事項					
根拠となる法令					

０００５

市町村名	宮崎市	調査主体	宮崎市教育委員会	調査担当者	中山　豪
フリガナ 遺跡名	ﾐﾔﾜｷｲｾｷ 宮脇遺跡	フリガナ 所在地	ﾐﾔｻﾞｷｼﾐﾔﾜｷﾁｮｳ 宮崎市宮脇町　他		
調査原因	宅地造成工事	調査面積	２５０㎡		
調査期間	平成8年4月8日～平成8年5月30日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	散布地	遺跡の主な時代	平安		
検出遺構	溝状遺構８条				
出土遺物	布痕土器				
特記事項					
根拠となる法令					

０００６

市町村名	西都市	調査主体	西都市教育委員会	調査担当者	簑方　政幾
フリガナ 遺跡名	ｳｴﾉﾊﾙｲｾｷ 上ノ原遺跡	フリガナ 所在地	ｻｲﾄｼｵｵｱｻﾞ 西都市大字		
調査原因	西都市ニューホープタウン	調査面積	16,400㎡		
調査期間	平成8年4月22日～平成9年1月21日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	集落	遺跡の主な時代	縄文時代早期・６～７Ｃ		
検出遺構	・集落遺構　・竪穴式住居跡３７軒　・堀立柱建物跡３棟				
出土遺物	・石器（石鏃・石斧等）　・土師器　・須恵器				
特記事項	竪穴式住居跡は埋甕を有するもの、埋甕と竈を共有しているもの、竈だけ有るものがあり変遷を辿ることができる。また、昨年度から継続している調査で、合わせると５７軒にもなり、大集落跡であったことが判明した。 「西都原古墳研究所年報」第１３号				
根拠となる法令					

０００７

市町村名	西都市	調査主体	西都市教育委員会	調査担当者	簑方　政幾
フリガナ 遺跡名	ﾔﾏｳﾁｻｸﾗﾊﾞﾙｲｾｷ 山内・桜原遺跡	フリガナ 所在地	ｻｲﾄｼｵｵｱｻﾞ 西都市大字		
調査原因	市道拡幅工事	調査面積	2,475㎡		
調査期間	平成8年11月19日～平成8年12月26日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	集落	遺跡の主な時代	縄文時代早期		
検出遺構	集積遺構１基・焼礫群				
出土遺物	縄文土器				
	石器（すり石・石鍬等）				
特記事項	「西都原古墳研究所年報」第１３号				
根拠となる法令					

０００８

市町村名	西都市	調査主体	西都市教育委員会	調査担当者	簑方　政幾
フリガナ 遺跡名	ｼﾅｲｲｾｷ 市内遺跡	フリガナ 所在地	ｻｲﾄｼｵｵｱｻﾞ 西都市大字		
調査原因	遺跡所在確認調査	調査面積	2,000㎡		
調査期間	平成8年11月28日～平成9年2月28日	調査後の処置	現状維持		
遺跡の種別	日向国分寺	遺跡の主な時代	奈良～平安時代		
検出遺構	・回廊跡（ピット列）				
	・溝状遺構				
出土遺物	・布目瓦（軒平瓦・軒丸瓦・平瓦・丸瓦等）				
	・土師器　・須恵器　・陶器				
特記事項	回廊の外側に巡らされていたと推定される溝状遺構の北辺が確認され、昨年度の調査で南辺・東辺（東辺確定５３．４ｍ）が確認されていることから、主要伽藍配置の東側部分をほぼ解明。回廊跡を再確認。				
	「日向国分寺跡一遺跡所在確認調査に伴う市内遺跡発掘調査概要報告書Ⅱ」西都市埋蔵文化財発掘調査報告書第２５集				
根拠となる法令					

０００９

市町村名	西都市	調査主体	西都市教育委員会	調査担当者	簑方　政幾
フリガナ 遺跡名	ｼﾅｲｲｾｷ 市内遺跡	フリガナ 所在地	ｻｲﾄｼｵｵｱｻﾞ 西都市大字		
調査原因	市営墓地造成工事	調査面積	2,000㎡		
調査期間	平成9年1月22日～平成9年3月31日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	日向市国分寺	遺跡の主な時代	縄文時代早期・弥生時代後期～古墳時代前期		
検出遺構	・集石遺構１７基　・竪穴式住居跡４軒　・土坑１基				
出土遺物	・縄文土器　・弥生土器　・土師器　・石器（石鏃・すり石・石皿等）				
特記事項	新立遺跡では平成３年度の調査を含めると、集石遺構４６基、弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴式住居跡２４軒にもなり、大集落群であることが確認された。「西都原古墳研究所年報」第13				
根拠となる法令					

0010

市町村名	都城市	調査主体	都城市教育委員会	調査担当者	米澤　英昭
フリガナ 遺跡名	ツルハミイセキ 鶴喰遺跡（第1次）	フリガナ 所在地	ミヤキノジョウシヨコイチチョウツルハミ 都城市横市町字鶴喰		
調査原因	県営ほ場整備事業	調査面積	3,100㎡		
調査期間	平成8年10月1日～平成9年3月25日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	集落跡・水田跡	遺跡の主な時代	古墳・中世		
検出遺構	古墳･･･竪穴住居跡6基・柱穴群・土坑群 中世･･･溝状遺構・道路状遺構・水田跡16面・柱穴群・土坑群				
出土遺物	縄文土器・古墳土器・土師器・須恵器・軽石製品・木製品・鉄製品・舶載陶磁器				
特記事項	15世紀後半（文明年間）に噴火した桜島火山灰直下で水田跡を検出。 木製品・鉄製品などが出土。 竪穴住居跡（古墳）を検出。				
根拠となる法令					

0011

市町村名	都城市	調査主体	都城市教育委員会	調査担当者	米澤　英昭
フリガナ 遺跡名	オオウライセキ 大浦遺跡	フリガナ 所在地	ミヤコノジョウシウメキタチョウ 都城市梅北町　10585番外		
調査原因	市道改良工事	調査面積	220㎡		
調査期間	平成8年7月29日～平成8年9月13日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	集落跡	遺跡の主な時代	弥生中期		
検出遺構	弥生中期･･･竪穴住居跡1基 溝状遺構1状・道路状遺構2状				
出土遺物	縄文土器・弥生土器・石器・軽石製品・鉄製品				
特記事項	用途不明の軽石製品（竪穴住居跡内出土）や、紡錘車と思われる鉄製品・外耳土器などが出土。				
根拠となる法令					

0012

市町村名	都城市	調査主体	都城市教育委員会	調査担当者	横山　哲英
フリガナ 遺跡名	 築池地下式横穴墓(1996-1~4号)	フリガナ 所在地	 都城市下水流町2587番地　外		
調査原因	耕作中の陥没	調査面積	50㎡		
調査期間	平成8年8月16日～平成8年8月31日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	墳墓（地下式横穴墓）	遺跡の主な時代	古墳時代		
検出遺構	地下式横穴墓4基				
出土遺物	蛇行剣1振、短剣2振、鉄鏃、銅製耳環、朱玉、土師質土器など				
特記事項	築池地下式横穴墓群内では3例目となる蛇行剣が出土。				
根拠となる法令					

００１３

市町村名	都城市	調査主体	都城市教育委員会	調査担当者	横山　哲英
フリガナ 遺跡名	ﾁｭｳｵｳﾄｳﾌﾞﾁｸｲｾｷｸﾞﾝ 中央東部地区遺跡群（第２次調査）	フリガナ 所在地	ﾐﾔｺﾉｼﾞｮｳｼﾅｶﾏﾁ 都城市中町２６６０番地　外		
調査原因	土地区画整備事業	調査面積	564㎡		
調査期間	平成8年11月5日～平成9年2月7日	調査後の処置	消滅、一部現状保存		
遺跡の種別	集落・散布地	遺跡の主な時代	弥生時代後期、中・近世		
検出遺構	竪穴住居跡（花弁状住居）１軒　「弥生時代後期」、溝状遺構７条、道路状遺構３条、土坑６基 柱穴群など　「中～近世」				
出土遺物	弥生土器　「弥生時代後期」 国産陶磁器（肥前系磁器・薩摩焼）　「中～近世」				
特記事項	遺跡北側の年見川へ向かって延びる幅員約４ｍの大溝を検出。生活排水路としての昨日が想定される。				
根拠となる法令					

００１４

市町村名	都城市	調査主体	都城市教育委員会	調査担当者	横山　哲英
フリガナ 遺跡名	ｸﾀﾞﾏｲｾｷ 久玉遺跡（第８次調査）	フリガナ 所在地	ﾐﾔｺﾉｼﾞｮｳｼｺｵﾘﾓﾄﾁｮｳ 都城市郡元町３０３１番地外		
調査原因	土地区画整理事業	調査面積	1,237㎡		
調査期間	平成8年4月5日～平成8年8月19日	調査後の処置	消滅、一部現状保存		
遺跡の種別	集落・散布地	遺跡の主な時代	中世・近世		
検出遺構	溝状遺構１５条、道路状遺構２条、土坑１４基、堀立柱建物３棟、柱穴群など「中～近世」				
出土遺物	国産陶磁器（肥前系磁器・薩摩焼） 舶載磁器（青磁）など　「中～近世」				
特記事項	方形に巡り、屋敷地等を区画する目的が想定される溝状構を検出。				
根拠となる法令					

００１５

市町村名	都城市	調査主体	都城市教育委員会	調査担当者	桑畑　光博
フリガナ 遺跡名	ｲｹﾉﾄﾓｲｾｷ 池ノ友遺跡（第２次）	フリガナ 所在地	ﾐﾔｺﾉｼﾞｮｳｼﾊﾔﾐｽﾞﾁｮｳ 都城市早水町３８９１番１外		
調査原因	都城市公園整備事業	調査面積	2,000㎡		
調査期間	平成9年1月27日～平成9年3月31日	調査後の処置	保存		
遺跡の種別	集落跡	遺跡の主な時代	縄文早期・平安・中世・近世		
検出遺構	縄文時代早期･･･集石遺構　2 中世～近世･･･溝状遺構　９、堀立柱建物跡　５、土坑　５、井戸跡　２				
出土遺物	縄文土器（円筒形土器）、弥生土器、石器（弥生時代の扁平片刃石斧が中世の溝状遺構から出土）、土師器、貿易陶磁器・国産陶器（常滑焼・備前焼など）				
特記事項	南北方向に走行する総延長約６０ｍの溝状遺構（「Ｖ」字溝）が検出された。 生活排水や用水のためのものと思われる。出土遺物の年代は１２世紀から１５世紀までと幅が広い。				
根拠となる法令					

００１６

市町村名	都城市	調査主体	都城教育委員会	調査担当者	桑畑　光博
フリガナ 遺跡名	ﾀﾀﾆ･ｼﾘｴﾀﾞｲｾｷ 田谷・尻枝遺跡	フリガナ 所在地	ﾐﾔｺﾉｼﾞｮｳｼﾐﾅﾐﾖｺｲﾁﾁｮｳ 都城市南横市町３８８５番外		
調査原因	市道改良工事	調査面積	3,833㎡		
調査期間	平成8年7月15日～平成8年12月24日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	罠猟跡・集落跡	遺跡の主な時代	縄文早期・中期・中世・近世		
検出遺構	縄文時代早期･･･陥し穴１、ピット群、　縄文時代中期･･･陥し穴１　中世･･･溝状遺構１、土師器埋納遺構１，土坑群　近世･･･堀立柱建物跡１、溝状遺構２、土坑群				
出土遺物	縄文土器（円筒片土器）・弥生土器　石器（磨石など）　土師器　陶磁器				
特記事項	縄文時代早期と中期の陥し穴が、テフラ（火山灰）との関係によって明確にとらえられた（縄文時代早期陥し穴･･･桜島末吉軽石・霧島蒲鉾牟田ｽｺﾘｱ（7500年前）下、縄文時代中期陥し穴･･･霧島御池（4200年前）直下に陥し穴掘削の際に排出された人為的二次堆積土が認められた。）				
根拠となる法令					

００１７

市町村名	都城市	調査主体	都城市教育委員会	調査担当者	矢部　喜多夫
フリガナ 遺跡名	ﾅﾘﾔﾏｲｾｷ 成山遺跡	フリガナ 所在地	ﾐﾔｺﾉｼﾞｮｳｼﾄﾖﾐﾂﾁｮｳ 都城市豊満町１４９１番外一筆		
調査原因	市営住宅建設	調査面積	505㎡		
調査期間	平成8年9月3日～平成8年11月10日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	集落・散布地	遺跡の主な時代	縄文後期・弥生後期・中世		
検出遺構	大溝１，硬化面をもつ大溝１，溝状遺構５，円形状遺構１，畦畔･･･中世				
	土坑１･･･中世　土坑･･･弥生				
出土遺物	縄文土器、弥生土器、石器、陶磁器				
特記事項	硬化面をもつ大溝はコーナーを有している可能性がある。				
根拠となる法令					

００１８

市町村名	清武町	調査主体	清武町教育委員会	調査担当者	伊東・井田
フリガナ 遺跡名	ｼﾓﾊﾗ 下原遺跡	フリガナ 所在地	ｷﾖﾀｹﾁｮｳｵｵｱｻﾞｷﾊﾗｱｻﾞｼﾓﾊﾗ 清武町大字木原字下原		
調査原因	県営農地保全整備事業	調査面積	4900㎡		
調査期間	平成９年１月　～平成９年２月	調査後の処置	工事実施		
遺跡の種別	集落跡	遺跡の主な時代	縄文時代後、晩期　近世		
検出遺構	近世　溝状遺構　８条				
	畝状遺構				
出土遺物	縄文式土器（後、晩期）				
	土師器				
特記事項	アカホヤ層上の黒色土において畑の畝状遺構が検出され、畝間には大量のパミスを含む黒色土が堆積していた。				
根拠となる法令					

0019

市町村名	清武町	調査主体	清武町教育委員会	調査担当者	伊東　井田
フリガナ 遺跡名	ﾊｯｶﾉ 白ヶ野第１、第４遺跡	フリガナ 所在地	ｷﾖﾀｹﾁｮｳｵｵｱｻﾞﾌﾅﾋｷﾊｯｶﾉ 清武町大字船引字白ヶ野		
調査原因	県営農地保全整備事業	調査面積	13,000㎡		
調査期間	平成８年７月　～平成１２月	調査後の処置	工事実施、一部現状保存		
遺跡の種別	集落跡	遺跡の主な時代	縄文時代早期～前期　中期		
検出遺構	縄文時代早期　集石遺構１４基　土坑２基				
	中世　土坑　５４基 *				
出土遺物	縄文土器（押形文土器、前平式土器、曽畑式土器　他）				
特記事項	調査区内において、５基前後のグループで集石遺構が検出された。比較的大型（直径1.5m、深さ90cm）の周囲に、小型（直径約50cm、深さ30cm）の集石が囲むような様相も見られた。 また、パミスを大量に含む埋土を持つ土壙がアカホヤ上で多数検出された。一端に柱穴状の堀込みを持ったもので、分析により霧島高原スコリア（10～13ｃ）が検出されている。				
根拠となる法令					

0020

市町村名	清武町	調査主体	清武町教育委員会	調査担当者	吉本鳥原山田小山
フリガナ 遺跡名	ｽﾀﾞｷｲｾｷ 須田木遺跡	フリガナ 所在地	ｷﾖﾀｹﾁｮｳｵｵｱｻﾞｶﾉｳｱｻﾞｽﾀﾞｷ 清武町大字加納字須田木		
調査原因	工業団地造成	調査面積	13,000㎡		
調査期間	平成８年９月　～平成９年１月	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	集落跡	遺跡の主な時代	縄文時代早期　弥生時代中期		
検出遺構	縄文時代早期　集石遺構１７３基　　弥生時代　竪穴式住居、土壙				
	平安時代　竪穴式住居				
出土遺物	縄文式土器（塞ノ神式土器、下剥峰式土器　等）　弥生式土器				
	石器　（石鏃　石匙　磨石　等）				
特記事項	173基もの集石遺構が検出され、中には直径約2.5m、深さ2mと言う超大型のものも含まれた。				
根拠となる法令					

0021

市町村名	田野町	調査主体	田野町教育委員会	調査担当者	金丸　武司
フリガナ 遺跡名	ﾓﾄﾉｶﾜﾁｲｾｷ 元野川内遺跡	フリガナ 所在地	 田野町甲元野川内		
調査原因	県営農地保全整備事業元野地区	調査面積	7,000㎡		
調査期間	平成8年8月21日～平成9年1月31日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	散布地	遺跡の主な時代	後期旧石器、縄文草創・早・前期		
検出遺構	集石遺構１１５基				
	土壙１９基				
出土遺物	縄文土器　草創期･･･爪形施文土器、隆帯文土器				
	早　期･･･押型文土器、平存式土器、天道ヶ尾式土器				
	下剥峰式土器、条痕文土器				
	前　期･･･早畑式土器				
	石　器　旧石器･･･剥片尖頭器、三稜尖頭器、槍先形尖頭器				
	縄　文･･･石鏃、石匙、スクレイパー、磨石、二次加工剥片				
特記事項	早期包含層より、鹿児島県中種子種子町奥ノ仁田遺跡で出土した貝殻文押圧土器など、草創期土器を数点確認したほか、同層位よりＡＴ直上の尖頭器類や縄文移行期の槍先形尖頭器が出土した				
	既報「元野川内遺跡」田野町文化財調査報告書第27集1997				
根拠となる法令					

0022

市町村名	田野町	調査主体	田野町教育委員会	調査担当者	森田・北郷・永友
フリガナ 遺跡名	ｶｹﾞ 鹿毛第3遺跡	フリガナ 所在地	ﾐﾔｻﾞｷｸﾞﾝﾀﾉﾁｮｳｵｿﾞ 宮崎郡田野町乙（野崎地区）鹿毛		
調査原因	県営畑地帯総合整備事業	調査面積	3,628㎡		
調査期間	平成8年10月17日～平成9年1月20日	調査後の処置	工事実施（消滅）		
遺跡の種別	遺物包蔵地、集落	遺跡の主な時代	縄文時代早期		
検出遺構	集石遺構１２基（縄文時代早期） 土壙　２基（時代不明：桜島３テフラ降灰以降）				
出土遺物	縄文時代早期　土器：前平系条痕文土器・押型文土器・下剥峰式土器・塞ノ神式土器ほか 石器：石鏃・石斧・磨石・石皿ほか				
特記事項	細片ながら角筒土器が１点出土。塞ノ神式土器は器形にバリエーションが見られる。				
特記事項	平成９年度に報告書刊行予定（現在整理中）				
根拠となる法令					

0023

市町村名	日南市	調査主体	日南市教育委員会	調査担当者	的場　文明
フリガナ 遺跡名	ｷﾗｸｲｾｷ 木落遺跡	フリガナ 所在地	ﾆﾁﾅﾝｼｵｵｱｻﾞﾊｷﾞﾉﾐﾈｱｻﾞｷﾗｸ 日南市大字萩之峰字木落5984番地2他		
調査原因	九州電力㈱飫肥～福島線送電線工事	調査面積	220㎡		
調査期間	平成9年2月10日～平成9年3月31日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	散布地	遺跡の主な時代	縄文早期		
検出遺構	特に遺構はなし。				
出土遺物	縄文早期土器片　コンテナ・ボックス１箱				
特記事項	九州電力（株）宮崎市店　66kv飫肥～福島線送電線新設工事に伴う発掘調査で送電線建設予定地				
特記事項	40ヶ所の内4ヶ所にて調査を実施。九州電力（株）受託事業。				
根拠となる法令					

0024

市町村名	日南市	調査主体	日南市教育委員会	調査担当者	的場　文明
フリガナ 遺跡名	ｳｴﾂﾙｲｾｷ 上鶴遺跡	フリガナ 所在地	ﾆﾁﾅﾝｼｵｵｱｻﾞｵｵｸﾎﾞｱｻﾞｳｴﾊﾞﾊﾞ 日南市大字大窪字上ヶ場3949番地9		
調査原因	九州電力㈱飫肥～福島線送電線工事	調査面積	403㎡		
調査期間	平成9年1月10日～平成9年2月18日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	散布地	遺跡の主な時代	縄文早期		
検出遺構	特に遺構はなし。				
出土遺物	縄文早期土器片　コンテナボックス１箱				
特記事項	九州電力（株）宮崎市店　66kv飫肥～福島線送電線新設工事に伴う発掘調査で送電線建設予定地				
特記事項	40ヶ所の内4ヶ所にて調査を実施。九州電力（株）受託事業				
根拠となる法令					

００２５

市町村名	日南市	調査主体	日南市教育委員会	調査担当者	的場　丈明
フリガナ 遺跡名	ｸﾍﾞｶﾞﾝｲｾｷ 川辺ケ野遺跡	フリガナ 所在地	ﾆﾁﾅﾝｼｵｵｱｻﾞﾖｼﾉｶﾀｱｻﾞｺｳｼﾞｶﾀﾆ 日南市大字吉野方字柑子ケ谷11555他		
調査原因	九州電力(株)飫肥～福島線送電線工事	調査面積	566㎡		
調査期間	平成8年12月5日～平成9年1月18日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	散布地	遺跡の主な時代	縄文早期		
検出遺構	集石遺構　7基				
出土遺物	縄文早期土器片　コンテナボックス1箱				
特記事項	九州電力（株）宮崎支店　66kv飫肥～福島線送電線新設工事に伴う発掘調査で送電線建設予定地 40ケ所の内4ケ所にて調査を実施。九州電力（株）受託事業。				
根拠となる法令					

００２６

市町村名	日南市	調査主体	日南市教育委員会	調査担当者	的場　丈明
フリガナ 遺跡名	ﾄﾞｳﾉﾓﾄｲｾｷ 堂之元遺跡	フリガナ 所在地	ﾆﾁﾅﾝｼｵｵｱｻﾞﾖｼﾉｶﾀｱｻﾞﾄﾞｳﾉﾓﾄ 日南市大字吉野方堂之元10671-2他		
調査原因	九州電力(株)飫肥～福島線送電線工事	調査面積	265㎡		
調査期間	平成8年11月9日～平成8年12月5日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	散布地	遺跡の主な時代	中・近世		
検出遺構	堀建柱跡　1軒				
出土遺物	陶器、磁器　コンテナボックス1箱				
特記事項	九州電力（株）宮崎支店　66kv飫肥～福島線送電線新設工事に伴う発掘調査で送電線建設予定地 40ケ所の内4ケ所にて調査を実施。九州電力（株）受託事業。				
根拠となる法令					

００２７

市町村名	日南市	調査主体	日南市教育委員会	調査担当者	的場　丈明
フリガナ 遺跡名	ｶｷﾉｷﾋﾞﾗｲｾｷ 柿ノ木平遺跡	フリガナ 所在地	ﾆﾁﾅﾝｼｵｵｱｻﾞｶﾐｶﾀｱｻﾞｵｵｿﾞﾉ 日南市大字上方字大園1032-3他		
調査原因	交流センター建設	調査面積	10,000㎡		
調査期間	平成8年1月20日～平成8年7月5日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	集落	遺跡の主な時代	弥生時代		
検出遺構	住居跡　1軒　　堀立柱跡　4軒　　土壙　5基				
出土遺物	弥生式土器　コンテナボックス　６０箱分				
特記事項	平成７年度からの継続調査				
根拠となる法令					

００２８

市町村名	高原町	調査主体	高原町教育委員会	調査担当者	大學　康宏
フリガナ 遺跡名	ﾋﾓﾘｲｾｷ 日守遺跡	フリガナ 所在地	ﾀｶﾊﾙﾁｮｳｵｵｱｻﾞｳｼﾛｶﾜｳﾁｱｻﾞﾋﾓﾘ 西諸県郡高原町大字後川内字日守10-1		
調査原因	個人による畑地造成	調査面積	２００㎡		
調査期間	平成9年2月17日～平成9年3月7日	調査後の処置	一部消滅・一部現地保存		
遺跡の種別	地下式横穴墓	遺跡の主な時代	古墳時代中期（５世紀中葉）		
検出遺構	地下式横穴墓２基（１基は玄室天井部崩落の為発見、もう１基は未開口） ・玄室は約14cm四方、一応両袖となっているが、右側袖の両面取りが曖昧である。 天井は寄棟造、棚状施設は左右壁のみ、前壁左側のみ他とは違う造形を施す。 羨道閉塞は板を使用、竪杭床面にはめ込み用とおもわれる溝有り。 ・もう１基は竪杭部のみ確認、羨道閉塞に軽石を使用（これについては現地保存）				
出土遺物	・蛇行剣　１振　・剣　１振　・鉄鏃　７本　・刀子　１本　・ヤリガンナ　１本				
特記事項	蛇行剣は今回ので県内３６例目、町内では初例にあたる。 報告書は平成９年度刊行予定。				
根拠となる法令					

００２９

市町村名	木城町	調査主体	木城町教育委員会	調査担当者	白岩　修
フリガナ 遺跡名	ｲｼｶﾜｳﾁﾎﾝﾑﾗｲｾｷ 石川内本村遺跡	フリガナ 所在地	ｷｼﾞｮｳﾁｮｳｵｵｱｻﾞｲｼｶﾜｳﾁｱｻﾞﾎﾝﾑﾗ 木城町大字石川内字本村		
調査原因	県営ほ場整備事業	調査面積	６，５００㎡		
調査期間	平成8年12月2日～平成9年3月31日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	集落	遺跡の主な時代	縄文後期		
検出遺構	竪穴住居３５軒（縄文後期）　掘っ立て柱建物２棟　土坑１０基　柱穴群				
出土遺物	縄文土器（後期）　磨石・石皿　石錘　石斧（打製・磨製）　石鏃				
特記事項	近隣の自然環境を利用した集落跡。竪穴住居のプランは、楕円形と隅丸方形に分けられ、後者には中央に炉穴を備えた２本柱を有するものが確認されている。磨消縄文土器が大量に確認されている。これらは、在地系のものとほぼ同量に出土していることから、他地域との公益関係が」こから推定される。				
根拠となる法令					

００３０

市町村名	小林市	調査主体	小林市教育委員会	調査担当者	中村　真由美
フリガナ 遺跡名	ｵｵﾌﾞｲｾｷ 大部遺跡	フリガナ 所在地	ｺﾊﾞﾔｼｼｵｵｱｻﾞﾏｶﾞﾀｵｵﾌﾞ 小林市大字真方字大部		
調査原因	圃場整備	調査面積	２５，０００㎡		
調査期間	平成8年7月25日～平成9年3月7日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	集落	遺跡の主な時代	縄文時代～中世		
検出遺構	古墳時代後期：住居跡　４軒 古代～中　世：堀立柱建物　２０軒　柱穴群				
出土遺物	・縄文時代：深鉢、石鏃、石核、石偶等　・弥生時代：甕、石鏃等 ・古墳時代：甕、高坏、柑など　・古代：布痕土器、土錘等　・中世：青磁、白磁、洪武通宝等				
特記事項					
根拠となる法令					

0031

市町村名	延岡市	調査主体	延岡市教育委員会	調査担当者	尾方農一・高浦哲
フリガナ 遺跡名	ﾉﾍﾞｵｶｼﾞｮｳﾎﾝﾏﾙｶｲﾀﾞﾝｱﾄ 延岡城本丸階段跡	フリガナ 所在地	ﾉﾍﾞｵｶｼﾋｶﾞｼﾎﾝｺｳｼﾞ 延岡市東本小路１８２		
調査原因	都市景観形成モデル事業	調査面積	５００㎡		
調査期間	平成8年7月8日～平成9年1月23日	調査後の処置	保存		
遺跡の種別	城館跡	遺跡の主な時代	近世		
検出遺構	（中世）堀切１　（近世）土塀基礎跡１　堀立柱建物跡（門柱）１対　集石遺構２ 〃　小石垣裏込め跡１　階段状遺構１　暗渠状遺構１　土坑１				
出土遺物	石器　土師器　陶磁機片　青銅金具　瓦片（鬼瓦、鯱瓦、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦）				
特記事項	延岡城調査で、今回初めて石器、堀切、牧野家家紋入り鬼瓦が検出・出土した。				
根拠となる法令					

0032

市町村名	北方町	調査主体	北方町教育委員会	調査担当者	小野　信彦
フリガナ 遺跡名	ﾊﾔﾋﾉﾐﾈﾁｸ 速日峰地区遺跡	フリガナ 所在地	ﾋｶﾞｼｳｽｷｸﾞﾝｷﾀｶﾀﾁｮｳ　ﾐ 東臼杵郡北方町巳		
調査原因	県営圃場整備	調査面積	１５，０００㎡		
調査期間	平成8年5月21日～平成9年3月21日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	集落跡	遺跡の主な時代	縄文時代早期、古墳時代		
検出遺構	竪穴住居跡１２軒（古墳時代）竪穴状遺構２基・溝状遺構２ヶ所・土坑・柱穴多数（時期不明） 集石遺構２基（縄文時代早期）				
出土遺物	縄文時代早期…押型文土器・石鏃等　古墳時代…須恵器・石庖丁・小型彷製鏡等 中世…土錘・陶磁器等				
特記事項	これまで検出された遺構の中で、上部に焼土や炭の集中する部分があり、下部には黒色土が600度以上の熱で変化した土杭の発見が注目される。土杭の下部は、不定形で焼土・灰は検出されていない。木の根が火山事等で焼けた跡ではないかとの指摘があった。また、弥生時代終末期～古墳時代始頭期の竪穴住居跡から、直径５cm程の小型彷製鏡が出土している。県内では出土例が少なく、出土状況（住居跡の床面積より若干堀り窪めた土坑内より出土。）など、今後は大分県例を参考に検討したい。				
根拠となる法令					

0033

市町村名	高千穂町	調査主体	高千穂町教育委員会	調査担当者	緒方　俊輔
フリガナ 遺跡名	ｸﾙﾏﾉｻｺｺｱﾅﾎﾞｸﾞﾝ 車の迫横穴墓群	フリガナ 所在地	ﾀｶﾁﾎﾁｮｳｵｵｱｻﾞﾐﾀｲｸﾙﾏﾉｻｺ 高千穂町大字三田井字車の迫246-1他		
調査原因	民間宅地造成	調査面積	５０㎡		
調査期間	平成9年2月6日～平成9年2月22日	調査後の処置	破壊		
遺跡の種別	墳墓	遺跡の主な時代	古墳後期		
検出遺構	古墳時代後期の横穴墓４基				
出土遺物	須恵器　馬具（轡・辻金具） 飾り弓金具　鉄刀・刀子・鉄鏃				
特記事項	民間宅地造成中に「横穴発見」の連絡が入り、地権者の調査に対してご協力を賜り、調査を行った。飾り弓金具は出土状況が押さえられる貴重な資料である。馬具（轡）も吾平原５号墓出土のよりも残りが良かった。				
根拠となる法令					

0034

市町村名	高千穂町	調査主体	高千穂町教育委員会	調査担当者	緒方俊輔
フリガナ 遺跡名	ｱｲﾗﾊﾞﾙﾖｺｱﾅﾎﾞｸﾞﾝ 吾平原横穴墓群	フリガナ 所在地	ﾀｶﾁﾎﾁｮｳｵｵｱｻﾞﾐﾀｲｱｻﾞｱｲﾊﾞﾙ 高千穂町大字三田井字吾平原436-1他		
調査原因	「ｼﾝﾜﾌﾟﾗﾄｰ」町立病院移転建設	調査面積	2，000㎡		
調査期間	平成8年4月1日～平成8年11月16日	調査後の処置	破壊。6号墓は剥ぎ取り転写整形で復元。		
遺跡の種別	墳墓	遺跡の主な時代	古墳後期		
検出遺構	縄文後期～晩期の竪穴住居1軒　古墳時代前期（布留）の土壌1基 古墳時代後期の横穴墓10基　土壌3基				
出土遺物	縄文土器・石器　土師器・須恵器　勾玉・管玉・なつめ玉・小玉・粟玉 馬具（轡）　鉄刀・刀子・鉄鏃・鉄環・耳環				
特記事項	宮崎県立北部職業訓練学校南側、国道218号高千穂ﾊﾞｲﾊﾟｽ一本木交差点の北西丘陵に立地。 東に向かってのびる南北2つの尾根の先端部分の南側及び東川斜面に堀込む。 北群2基、南群8基、6号墓は文部省科学研究費重点領域「遺跡探査」班（天理大学置田雅昭教授等）の調査協力によって、各種化学分析を行った。				
根拠となる法令					

0035

市町村名	西郷村	調査主体	西郷村教育委員会	調査担当者	鎌田　次郎
フリガナ 遺跡名	ﾊﾗｲｶﾜﾁｸｷｼｮﾝﾊﾞﾙｲｾｷ 払川内区キション原遺跡	フリガナ 所在地	ｻｲｺﾞｳｿﾝｵｵｱｻﾞﾀｼﾛｱｻﾞﾊﾗｲｶﾞﾜ 東臼杵郡西郷村大字田代字払川		
調査原因	県営中山間地区総合整備事業	調査面積	4，500㎡		
調査期間	平成8年5月20日～平成8年10月31日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	散布地	遺跡の主な時代	旧石器・縄文前期・後期・弥生末期・近世		
検出遺構	・溝状遺構1条（近世）・竪穴住居1軒（弥生終末）・竪穴1基（時期不明） ・土坑4基、集石遺構36基（縄文早期）				
出土遺物	・古銭・杓子状土製品、弥生土器・縄文土器（各期）・玉2点（時期不明）・貝殻文円筒土器 他、磨石、石鏃、石皿、石匙、ｽｸﾚｲﾊﾟｰ（縄文早期） 石材：尾鈴、ﾁｬｰﾄ、黒曜石（姫島）、水晶、頁岩、流紋岩				
特記事項	アカホヤ二次堆積土層中より出土した、玉及び二股の玉はその形態などから注目される。 「キション原遺跡」西郷村埋蔵文化財発掘調査概要報告書　第3号　1997年				
根拠となる法令					

0036

市町村名	西郷村	調査主体	西郷村教育委員会	調査担当者	鎌田　次郎
フリガナ 遺跡名	ｵｶﾞﾜﾁｸｵｶﾞﾜｳｴﾉﾊﾙｲｾｷ 小川地区小川上之原遺跡	フリガナ 所在地	ﾋｶﾞｼｳｽｷｸﾞﾝｻｲｺﾞｳｿﾝｵｵｱｻﾞﾀｼﾛｱｻﾞｳｴﾉﾊﾙ 東臼杵郡西郷村大字田代字上之原		
調査原因	県営中山間地域総合整備事業	調査面積	4，300㎡		
調査期間	平成8年11月1日～平成9年2月16日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	散布地	遺跡の主な時代	縄文早・後晩期・弥生末期・近世		
検出遺構	・竪穴住居9軒、《内4軒、方形基調間仕切り住居》（弥生終末）・柱穴42基時期不明含む（弥生終末）・土坑2基　縄文晩期（内1基は住居跡か？）・集石遺構9基（縄文早期）				
出土遺物	・古銭・縄文土器多数《完形の壷・鉢・小型壷等》・石器・砥石・石包丁・鉄《柳葉様式鉄鏃3点・槍鉋1点・鉄拳1点》（弥生終末）黒色磨研土器等（縄文晩期）・貝殻文土器、押型文土器、居合い鏃、磨石、石匙（縄文早期）				
特記事項	ほぼ完形で、住居跡から検出された鉄剣は、その類例の少なさからも注目される。また、その同じ住居から石包丁も出土しており、石と鉄の関係についても貴重な資料と成り得る。 「小川上之原遺跡」西郷村埋蔵文化財発掘調査概要報告書　第2号　1997年				
根拠となる法令					

００３７

市町村名	南郷町	調査主体	南郷町教育委員会	調査担当者	県文化課依頼
フリガナ 遺跡名	ｸｴﾝﾉｲｾｷ 崩野遺跡	フリガナ 所在地	ﾐﾅﾐﾅｶｸﾞﾝﾅﾝｺﾞｳﾁｮｳｵｵｱｻﾞﾖﾜﾗﾍｲ 南那珂郡南郷町大字榎原丙２４８		
調査原因	土取り工事	調査面積	１，０００㎡		
調査期間	平成8年7月1日～平成8年12月24日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	散布地・集落跡	遺跡の主な時代	縄文時代		
検出遺構	・かまどが数基、柱穴				
出土遺物	・縄文土器　・陶磁器　・洪武通宝				
特記事項					
根拠となる法令					

００３８

市町村名	南郷町	調査主体	南郷町教育委員会	調査担当者	
フリガナ 遺跡名	ｵｵﾀﾆｳｼﾛﾀﾞｲｾｷ・ﾅｶﾉｻｺｲｾｷ 大谷後田遺跡・中之迫遺跡	フリガナ 所在地	ﾐﾅﾐﾅｶｸﾞﾝﾅﾝｺﾞｳﾁｮｳｵｵｱｻﾞﾖﾜﾗ 南那珂郡南郷町大字榎原		
調査原因	農免道路建設のため	調査面積	１，２００㎡		
調査期間	平成8年6月10日～平成9年3月27日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	散布地・集落跡	遺跡の主な時代	縄文時代		
検出遺構	集石遺構				
出土遺物	集石 縄文土器				
特記事項					
根拠となる法令					

００３９

市町村名	高岡町	調査主体	高岡町教育委員会	調査担当者	島田　正浩
フリガナ 遺跡名	ｴﾉｷﾊﾞﾙｲｾｷ 榎原遺跡	フリガナ 所在地	ﾀｶｵｶﾁｮｳｵｵｱｻﾞﾀｶﾊﾏｱｻﾞｴﾉｷﾊﾞﾙ 高岡町大字高浜字榎原		
調査原因	農地造成	調査面積	約１００㎡		
調査期間	平成8年5月16日～平成8年5月24日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	散布地	遺跡の主な時代	縄文早期		
検出遺構	礫群				
出土遺物	縄文土器（平栫式） 石鏃　２点　敲石				
特記事項	石鏃は姫島産黒曜石と赤色頁岩製				
根拠となる法令					

００４３

市町村名	高岡町	調査主体	高岡町教育委員会	調査担当者	島田　正浩
フリガナ 遺跡名	ｸｷﾞﾉ 久木野遺跡（第６区）	フリガナ 所在地	ﾀｶｵｶﾁｮｳｵｵｱｻﾞｳﾗﾉﾐｮｳｱｻﾞｸｷﾉ 高岡町大字浦ノ名字久木野		
調査原因	農道新設	調査面積	約４００㎡		
調査期間	平成8年11月5日～平成8年12月27日	調査後の処置	消滅		
遺跡の種別	散布地	遺跡の主な時代	縄文早期		
検出遺構	礫群　集石遺構２基				
出土遺物	縄文土器（押型文・平栫式・轟式）				
特記事項	久木野遺跡第１区の南側に位置する。 牛ノ脛ローム層より轟式土器出土。				
根拠となる法令					

第3節　埋蔵文化財の試掘調査一覧

開始		終了		事業名	試掘場所	内容
月	日	月	日			
6	4	6	10	県営ほ場整備「横市地区」	都城市横市町	遺物・遺構有り
6	24	6	25	糸原地区ほ場整備	宮崎市大字糸原	遺物・遺構有り（弥生～古墳時代）
7	2	7	3	広域農道霧島北部２期	えびの市西長江浦	遺物・遺構有り
7	31	8	1	農道整備	えびの市おこびら	遺物・遺構無し
8	4	--	--	民間宅地造成	三股町宮村	遺物・遺構無し
8	25	--	--	県警察本部交番建設	清武町旧大久保小跡地	遺物・遺構無し
8	25	8	26	県道都農・綾線道路改良	西都市上三財	遺物・遺構無し
8	27	8	28	須木村立中央保育所建設	須木村中原	遺物・遺構有り
8	27	8	28	（仮称）倉岡ニュータウン建設	宮崎市倉岡	遺構・遺物有り
9	10	9	11	大淀川左岸農水利事業	高岡町一里山字漆野原	遺物・遺構無し
9	16	9	17	県営ほ場整備「船引地区」	清武町船引	遺物・遺構有り
9				温泉開発事業	南郷村大字神門	遺物・遺構有り（縄文土器）
9	24	--	--	民間福祉施設建設	三股町蓼池	遺物・遺構無し
9	26	--	--	宮崎大学学舎建設	宮崎市木花台　宮崎大学	遺物・遺構無し
9	30	10	1	農水省都城盆地水利事業	都城市王子原	遺物・遺構有り
10	8	--	--	木材加工研究センター建設	都城市花繰町	遺物・遺構有り
10	14	10	16	地域資源作物開発センター建設	小林高校野尻分校跡地	遺物・遺構無し
10	16	11		県総合農業試験場整備事業	川南町大字勝司ヶ別府	遺物・遺構有り（集石遺構・縄文土器）
10	21	10	28	県総合農業試験場本場整備	佐土原町	遺物・遺構有り
10	29	--	--	国道268号拡幅工事「野尻工区	野尻町東麓	遺物・遺構無し
11	5	11	6	春田バイパス建設	佐土原町	遺構・遺物無し

開始		終了		事業名	試掘場所	内容
月	日	月	日			
11	11			国営かんがい排水	川南町大字銀座	遺物・遺構有り（集石遺構・縄文土器）
11	27	12	10	県営中山間地域総合整備	東郷町大字下三ヶ	遺物・遺構有り（縄文土器）
11	30	12	5	県営ほ場整備「鹿村野地区」	田野町鹿村野	遺物・遺構有り
12	1	12	9	県営ほ場整備「船引地区」	清武町船引	遺物・遺構有り
12	2	--	--	広域農道霧島北部２期	えびの市西長江浦	遺物・遺構無し
12	9	12	12	県営ほ場整備「横市地区」	都城市横市町	遺物・遺構有り
12	15	12	16	広域農道西臼杵２期	高千穂町大字三田井	遺物・遺構有り（集石遺構・縄文土器・土師器）
12	16	--	--	木材加工研究センター建設	都城市花繰町	遺物・遺構有り
12	25	--	--	県営ほ場整備「横市地区」	都城市乙房町	遺物・遺構有り
1	19			県営中山間地域総合整備事業	東郷町大字山陰	遺物・遺構無し

第4節　埋蔵文化財の事業調整一覧

（県北）

月	日	事業名	調整先	内容
4	28	道の駅関連事業	日向土木事務所	発掘調査の設定
5	2	一般国道10号延岡道路建設	建設省延岡工事事務所	林遺跡発掘調査の協議
5	7	県道高鍋・美々津線建設	高鍋土木事務所	県指定都農古墳の取扱協議
5	8	県道都農・綾線建設	西都土木事務所	試掘調査の協議打ち合せ
5	30	一般国道10号延岡道路建設	建設省延岡工事事務所	延岡道路全路線尾文化財事業量調整
5	30	中山間総合整備事業「西門川」	東臼杵農林振興局	本調査の時期調整
6	2	御陵参拝線拡幅	児湯農林振興局	現地立会
6	16	県道木城・西都線改良工事	高鍋土木事務所	事業確認と調査時期の調整
6	23	急傾斜対策	西都土木事務所	県指定村所古墳の取扱
6	24	緊急地方道整備	西臼杵支庁	県指定高千穂町古墳１号の取扱
7	22	県道都農・綾線建設	西都土木事務所	試掘調査の協議打ち合せ
7	28	国営かんがい配水	九州農政局尾鈴農業水利事業所	事業確認
9	4	県道木城・西都線改良工事	高鍋土木事務所	指定地番の取扱
9	18	東九州自動車道西都都農間	高速道路対策局	高鍋町古墳と塩見城跡の取扱について
9	26	御陵参拝線拡幅	児湯農林振興局	指定地番の取扱
10	20	市道西都・三納線道路改良工事	西都市社会教育課	指定古墳の指定拡大にむけての協議
11	4	県道西都原・山路線	西都土木事務所	指定地番と保存整備事業との調整
11	7	県営一般農道整備事業	児湯農林振興局	県指定三財古墳の取扱
11	12	農道整備	児湯農林振興局	事業確認
11	17	市道西都・三納線道路改良工事	西都市建設課	事業見直しについての協議
11	18	広域農道西臼杵２期地区	西臼杵支庁	試掘調査調整

（県央）

月	日	事業名	調整先	内容
4	28	糸原地区ほ場整備	中部農林振興局・宮崎市教委	ほ場整備に伴う発掘調査に関する問題
4	30	船引地区ほ場整備	中部農林振興局・清武町教委	ほ場整備に伴う発掘調査に関する問題
6	23	中村地区地滑り対策	日南土木事務所	事業の概要説明、現地視察（南郷町）
6	23	堀川運河発掘調査	油津港湾事務所	発掘調査に関する事前打合せ（日南市）
7	1	漆野原ファームポンド建設	九州農政局宮崎・農水利事務所	ファームポンド建設に伴う地中探査打合せ（高岡町）
7	24	農道建設	南那珂農林振興局	日南市楠原遺跡調査に関する協議
8	1	駐在所建設	県警察本部	清武町大久保小学校跡地への交番建設に伴う試掘に関する協議
8	4	県総合農業試験場本場整備	農政企画課・中部農林振興局	佐土原本場の整備概要説明、現地協議
9	3	西都原古墳群買上	文化庁記念物課	西都原古墳群の買上げ国庫補助について
9	9	堀川運河保存整備	港湾課・日南市・油津港湾事務所	堀川運河第１次調査結果報告及び復元方法について
9	12	鹿村野地区ほ場整備	中部農林振興局・田野町教委	今年度事業地区の確認、試掘結果報告
9	22	宮崎西環状線建設	宮崎土木事務所	柏田工区のルート上の古墳について
9	24	春田バイパス建設	宮崎土木事務所	佐土原町内の建設予定地の試掘について
9	30	船引地区ほ場整備	中部農林振興局・清武町教委	清武町船引地区調査の進展について
10	3	(仮称)倉岡ニュータウン建設	住宅供給公社・日本道路公団	本調査開始に伴う事前協議
10	6	串間ゴルフコース（仮称）開発	観光振興課・串間市、他	ゴルフコース開発についての経過説明、各担当事業所の所管事項説明、協議
11	10	宮崎西インター建設	建設省宮崎工事事務所	未調査区の今後の進捗について
12	25	堀川運河保存整備	日南市・港湾課・油津港湾事務所	第２次調査について

（県南）

月	日	事業名	調整先	内容
5	23	総合農業試験場畑作園芸支場	農村建設課・北諸県農林振興局	９年度埋蔵文化財調査について
5	27	九州電力宮崎幹線送電線建設	九州電力	宮崎幹線対象地区の埋文調整について

5	28	東霧島第３砂防ダム	建設省宮崎工事事務所	９年度事業について（現地協議）
6	11	九州農業試験場整備	九州農業試鹿児島営繕事務所	９年度事業について（現地協議）
6	12	畜産試験場	畜産試験場・畜産課	９年度事業について（現地協議）
6	25	県営農地保全事業 「平八重地区」ほか	北諸県農林振興局 高城町教育委員会	高城町内の平成９年度県営農業基盤事業関連事業について
7	15	平成９年度農政事業	西諸県農林振興局 えびの市教育委員会	えびの市内の平成９年度県営農業基盤事業関連事業について
7	17	平成９年度土木事業	小林土木事務所	９年度事業調整について
7	23	県営ほ場整備　「横市地区」	都城市教育委員会	県営ほ場整備事業「横市地区」の調査の対応について
7	29	県営ほ場整備 「横市地区」	北諸県農林振興局 都城市教育委員会	９年度事業区の埋蔵文化財調査と　10年度遺構の事業調整について
8	7	農用地総合整備事業	農用地整備公団	９年度事業区の埋蔵文化財調査と　10年度遺構の事業調整について
9	10	木材加工研究センター建設	林政企画課・畑作園芸支場	確認調査の打ち合せ
9	26	地域資源作物開発センター建設	農政企画課	試掘調査打ち合せ
9	29	国道268号拡幅工事「野尻工区」	小林土木事務所	試掘調査打ち合せ
10	3	県営ほ場整備　「横市地区」	都城市教育委員会	県営ほ場整備事業「横市地区」の調査体制について
10	13	県営農地保全事業「下水流地区	北諸県農林振興局	９年度事業区の埋蔵文化財調査について
10	15	王子原ファームポンド	都城農業水利事務所	９年度事業区の埋蔵文化財調査について
11	4	県営ほ場整備「横市地区」	北諸県農林振興局・都城市教育委員会	10年度の肱穴遺跡発掘調査について
11	13	県営ほ場整備「横市地区」	北諸県農林振興局・都城市教育委員会	10年度の肱穴遺跡発掘調査について
11	26	平成１０年度農政事業	西諸県農林振興局・小林市教育委員会	小林市内の平成10年度県営農業基盤事業関連事業
11	27	農用地総合整備事業	農用地整備公団	平成10年度の埋蔵文化財調査について
12	1	平成９年度・１０年度農政事業	西諸県農林振興局 えびの市教育委員会	えびの市内の平成9年度・10年度県営農業基盤事業関連事業について
12	24	農用地総合整備事業	農用地整備公団	広域農道隣接の新宮城跡の取扱について（現地協議）
2	6	県営ほ場整備「中霧島地区」	北諸県農林振興局・山田町教育委員会	9年度繰越事業の埋蔵文化財の調査について

第5節　奈良国立文化財研究所研究参加一覧

月	日	課程名	参加者名	所属	備考
7	1	一般課程	川越　健	清武町社会教育課	講義、実習(7/24まで)
8	19	文化財写真課程	矢部　喜多夫	都城市文化課	写真図版作成の知識等
11	6	官衙遺跡調査課程	吉本　正典	宮崎県文化課	諸官衙遺跡発掘調査法等
11	26	遺跡保存整備課程	山田　聡	延岡市文化課	文化財環境保全等
2	4	年代決定法課程	日高　広人	宮崎県文化課	年輪年代法等
2	4	年代決定法課程	山寄　薫	高崎町社会教育課	同上

第6節　文化庁担当者会、研修会参加一覧

月	日	研修会名	参加者名	所属	備考
9	4 5	埋蔵文化財 担当職員等講習会	柳田　宏一	宮崎県文化課	於：東京医科歯科大学
1	13 14	埋蔵文化財 担当職員等講習会	永友　良典	宮崎県文化課	於：大阪大学医学部

第７節　埋蔵文化財保護行政担当者会一覧

月	日	研修会名	参加者名	内容
4	11	第１回埋蔵文化財連絡調整会	文化課、埋蔵文化財センター	平成９年度事業について
5	9	第２回埋蔵文化財連絡調整会	文化課、埋蔵文化財センター	事業内容調整、他
5	14	文化・文化財保護行政主幹課長会議	県内市町村 主幹課長	文化課各係の事業説明、 県施設の事業説明、他
5	15	文化財保護行政担当者会議	県内市町村 担当者	補助金・届け関係説明 埋文基準整備事業の説明
5	22	開発事業と埋蔵文化財発掘調査の調整会	各開発部局 担当者	開発事業と発掘調査との 事務処理の流れの説明等
6	13	第３回埋蔵文化財連絡調整会	文化課、埋蔵文化財センター	未作成報告書について他
7	11	第４回埋蔵文化財連絡調整会	文化課、埋蔵文化財センター	開発事業調整、等
8	22	第５回埋蔵文化財連絡調整会	文化課、埋蔵文化財センター	発掘調査機関等の導入について
9		第６回埋蔵文化財連絡調整会	文化課、埋蔵文化財センター	開発事業調整、等
10	7 8	東九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査三県協議会	大分県、宮崎県 鹿児島県担当者	発掘調査基準に基づく経 費の積算について、他
10	9	第７回埋蔵文化財連絡調整会	文化課、埋蔵文化財センター	開発事業調整、等
11	4	埋蔵文化財担当者会（県央地区）	埋蔵文化財センター	各市町村埋蔵文化財行政についての諸問題
11	6	埋蔵文化財担当者会（県北地区）	内藤記念館	各市町村埋蔵文化財行政についての諸問題
11	7	埋蔵文化財担当者会（県南地区）	高城町公民館	各市町村埋蔵文化財行政についての諸問題
11	14	第８回埋蔵文化財連絡調整会	文化課、埋蔵文化財センター	開発事業調整、等
12	19	第９回埋蔵文化財連絡調整会	文化課、埋蔵文化財センター	発掘調査体制の整備について、他
1		第１０回埋蔵文化財連絡調整会	文化課、埋蔵文化財センター	開発事業調整、等